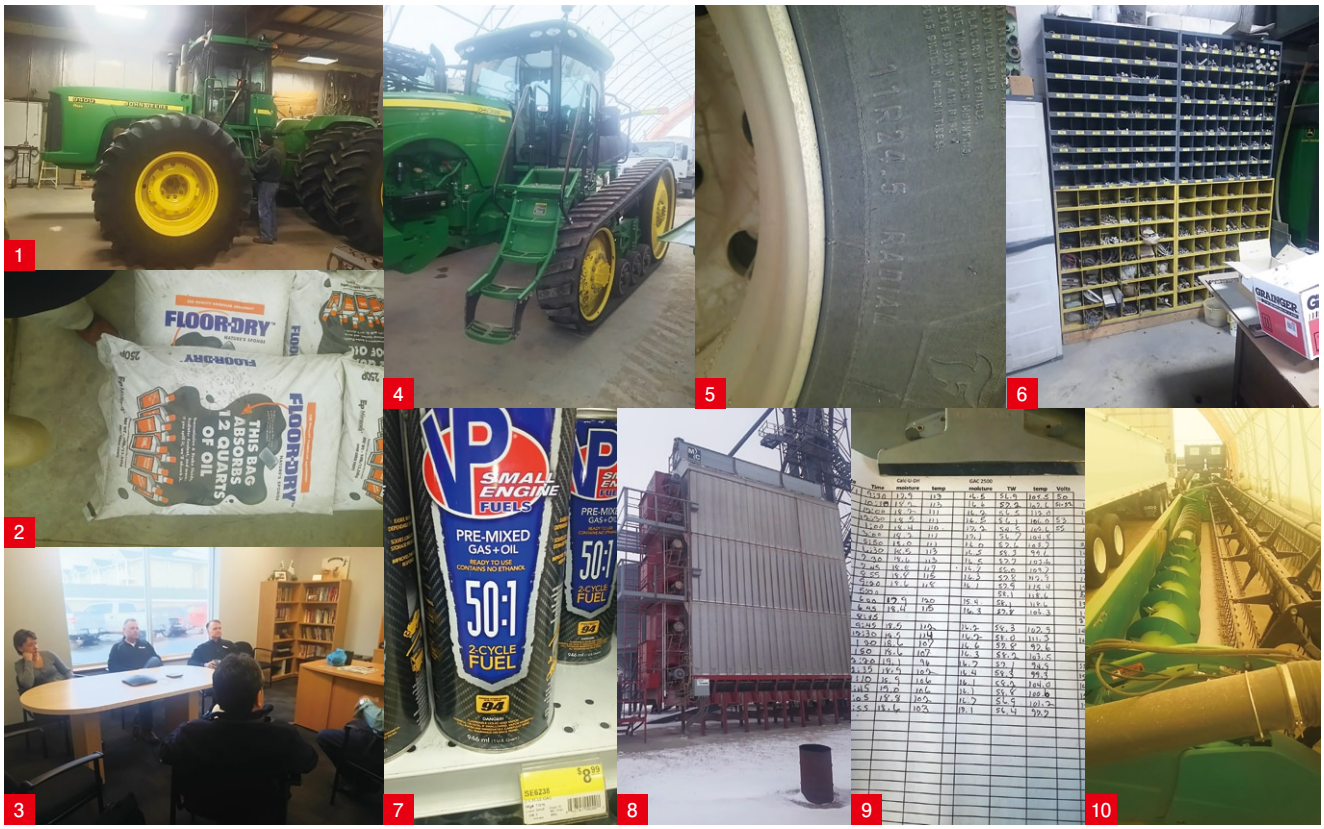
前編

# ヒール・ミヤイのアメリカ・ケンタッキー・ツアー

**本誌コラムでおなじみのヒール・ミヤイ氏は2月、約3週間にわたって米国中東部のケンタッキー州を訪問した。そこで見たことや感じたことを寄稿してくれた。同氏によれば、毎年訪れるアメリカは、多様な文化を受け入れる器を持っているのと同等の複雑さを社会に問いかけているのだという。　　写真・文／ヒール・ミヤイ**

ドイツ系リヒテンシュタインからの移民5代目であるブレイン・クーマーさんの農場で。大豆1,000ha、コーン1,400ha、春小麦100haを生産する。奥様のミーガンさんはカウティーの検事補（元弁護士）。ブレインさんの父親は大豆生産者協会の役員を務める。



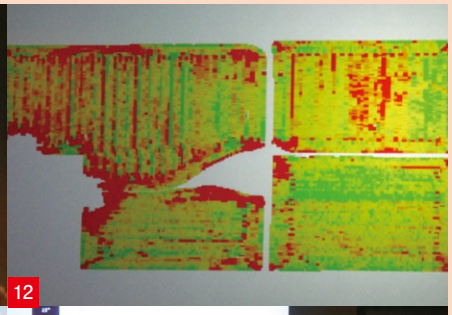

1 $7,500のトラクターはお買い得。2 油吸収剤は農場でも必要だ。3 この人たちとはドイツのアグリテクニカでも会った。4 管理用のクローラートラクター。5 日本でも将来使うことになるトレーラー用24.5インチタイヤ。6 インチとメトリックのボルトは必需品。7 2サイクル用オイルは50対1。8 穀物乾燥機。9 しっかり乾燥具合を管理している。10 36フィートのヘッダーはでかい。

成田から飛行機に乗り込むと、エコノミークラスの9割は日本人を含むアジア人が占め、ビジネスクラスになるとアメリカ系と思われる比率が6割くらいになるのはなぜだろうと考えてしまう。エコノミークラスは観光目的の旅行者で、ビジネスクラスはその名のとおり、ビジネス客が多いのであれば頭を悩ます必要はない。それが正解だとすれば、「アメリカなんて」と軽口を叩く日本人がワンサカいるアメリカ行きの機内の精神構造を知ってしまったら、言っていることとやっていることが同じテロリストよりも凶暴性を持っているのかもと考えると何か空恐ろしいものを感じる。ビジネスクラスはエコノミークラスのおよそ2倍の価格差があるが、それを利用する目的は本当にビジネスなのだろうか。それが正解だとするならば、豊かな国のアメリカ人は日本をビジネスの相手とみるが、日本人はまだビジネスクラスを利用できない貧しく、搾取の対象となるかもしれない極東アジアの一国なのだろうか。いや違う。日本食は日系の航空会社のほうがおいしいものを提供するからだ！　だから、ANAやJALのビジネスクラスには日本人が多くいるとの情報もあるが、多くはCAと英語でやりとりできないジャパニーズ・ビジネスマンなんで

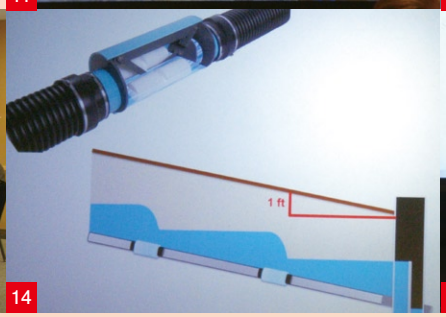
サウスウェストミネソタ州立大学で排水（暗渠）を学んだ。カナダから女性の普及員も参加していた。



11


12


13



14


15

11暗渠作業は大変。12暗渠でこんなに収量が変わる。13真剣に排水と暗渠を勉強中。14図を見てわかった方は将来性あり。15講師ヒール・ミヤイ。

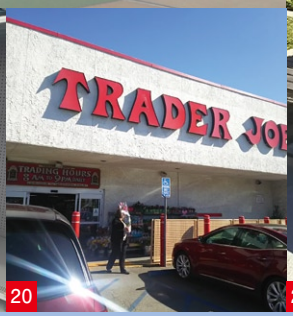

16


17


21


18


19



20

16今年のアメリカは暖かい。17カリフォルニア南部の農業は大変だ。手前の農業地帯がアメリカ、奥の住宅群がメキシコ。18ハーフラック・リブは6本の鎖骨と決まっているらしい。19普通のゴミ箱が日本では売っていない。20TRADER JOE'Sはチョイセレブ御用達のスーパーだ。21慰安婦のみなさん、ご苦労様でした。

しょ?と勘ぐってしまう。日本はもっと豊かになり、金髪・ブルーアイのCAを口説くくらいの大人にさせる教育は誰が行なうのだろうか。

「アメリカは覇権主義の国だ！」と中国が言えば、アメリカは「中国には人権がない」と応戦するが、LAに行くと住民の60％以上が中国人の地域がある。そこに住む中国系は本当に親米主義者なのだろうかと疑問に思う。そうなると、戦後のアメリカ社会で日本との優位性を作ることができた日系アメリカ人を作らなかった日本人の責任は大きい。中国の最後の武器はこうだ。「アメリカさん、なんだったら中国国民全員にパスポートを発行させ、全員にアメリカ行きの、すべてビジネスクラスの機体を用意しましょうか?」と言われたら、さすがのアメリカもビビってしまうだろう。

面白い話を聞いた。あのマイクロソフト創業者のビル・ゲイツさんはケチで有名だそうで、「私は、みんなが同じ目的地に行くのに、ファーストクラスに乗るような無駄なお金は支払わない」。ケチだが、個人利益の10％だったか20％を寄付する人の言うことに重みがある。で、ある方が注釈を入れた。「そうですね、あなたはプラベート・ジェットをお持ちでしたね」（つづく）